

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302313		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム ささはら 1階		
所在地	郡山市安積4丁目 164		
自己評価作成日	令和2年5月3日	評価結果市町村受理日	令和2年8月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年7月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが自立できるよう支援している。入居者様に役割を持っていただき、生きがいを感じていただけるように支援しています。職員の要望や意見を尊重している。入居者様の要望も取り入れた食事を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 新型コロナウイルス感染症の影響で、地域住民や家族を招待した行事が出来なくなっているが、予定通り事業所内で実施し、利用者の楽しみや気分転換を図る取り組みをしている。
 2. 室内の気温・湿度・輻射熱の暑さ指数(WBGT)を測定し、特に夏の熱中症に注意する等、年間を通して快適に生活できるよう配慮している。また、居間・廊下へ作品や写真を展示し、居心地が良く落ち着いた環境の整備に取り組んでいる。
 3. 利用者がそれぞれ持てる力を発揮し、食事作りや配膳・下膳、居室清掃等へ無理のない範囲で参加していただき、生きがいをもった暮らしができるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常時事務所内に掲げ、サービス、ケア内容の方向性を示せるようにしている。	理念は、年度末にスタッフ会議で話し合い見直しを行っている。また、毎朝の申し送り時に唱和し、意義を共有して実践に繋げている。さらに、理念を事務所、ホール入口へ掲示し、常に確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ地域の福祉施設との交流会参加、地域イベントへの参加をしている。運営推進会議に地域関係者、家族様などに参加していたり、交流をはかっている。	町内会へ加入し、地域で開かれるいきいきサロンや敬老会、子どもとの交流会への参加している。また、秋祭りの子ども神輿の訪問や事業所でのクリスマス会行事に高校生が参加する等、日常的に地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所広報を配り、事業所内をオープン化し、入居を考えている人に対して、いつでも見学していただけるように準備し、見学の際は認知症の知識を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	イベントの報告、口頭のみではなく写真を提示してもらっている。インシデント、事故も報告しご意見をいただき、サービス向上に努めている。	定期的に開催しているが、現在、新型コロナウイルス感染症予防対策により今年3月開催から中止している。会議では、利用状況・ヒヤリハット・事故・行事・職員研修状況を報告し、メンバーから意見をいただき、出された意見は、改善に向けてスタッフ会議で話し合いをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者がホームの様子を見に来たり、運営推進会議に参加していただいたり、地区担当者とも連携をとっている。	市担当者、事業者、介護相談員との三者会議、地域のグループホーム連絡会等で交流を図っている。また、生活保護担当者の毎月の訪問時にサービス提供の状況を伝える等、積極的に協力関係を構築するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を3ヶ月ごとに開催している。また、研修参加をし知識向上とチェックシートを使っての現場確認を行っている。	身体的拘束等適正化委員会を定期的で開催し、毎月のスタッフ会議で話し合いをしている。また、法人の自己チェックシートにより、年に1～2回実施し、必要時には、管理者が直接それとなく注意をしている。法人内研修を行い法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な虐待防止研修に参加し、常に新しい知識を学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人研修を1月に受講し、制度、条件等の知識を周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、不安、不満をなくすために、自分のペースではなく、ゆっくりと説明し、定期的に質問する機会を作り、理解できない事のないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の出席のお願いをし、外部の人もいる場で話して頂けるようにしている。毎月のお手紙にも、不満がないか確認する言葉をいれている。ご不満をいただいた場合はスタッフ全員に周知し、サービス向上に努めている。	入居時や面会時、毎月の請求書送付時等に意見・要望等について何うほか、運営推進会議では積極的に意見を出していただけるよう働きかけている。また、出された意見、要望は、毎月のスタッフ会議で協議し、必要時には本部から助言を得て運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で、運営側から伝えるだけではなく、スタッフの発言の機会を設け、全員参加型にしている。	毎月のスタッフ会議や職員との業務上の会話を大切に、利用者サービスの向上を図るため、出された意見・提案を反映させる取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフが得意な事をケア、サービスに活かしてもらい、中心になることで全員のコミュニケーションがとれ、オリジナリティのあるホームにしようとして努めている。時間外労働はなるべく出さず、給料面では向上できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ある研修会の参加や、認知症研修、介護福祉士の受験を促し、知識を活かしながらケアするようにし、ただ仕事をこなすだけにならないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の法人との集会や研修参加で、同業者、異業者とのつながりを持ち、将来的にビジネスや助け合いが出来るように努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、本人が過ごしやすい環境や信頼していただけるような、表情、言葉使い、雰囲気支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を事前に確認し、ご希望に添えるように努め、不満、不安、心身の疲労がないか、労いの言葉をかけ、安心してお話しして頂け様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人にどんな時間を過ごしたいか、過ごしてほしいかの意向を確認し、スタッフにケース会議で周知、認識し、グループホームで出来る、理想の支援が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛付や、配膳、洗濯ものを干してもらい、掃除を手伝っていただき、ホームの一員であることを認識してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙で状況を伝え、異常、心身のトラブルが発生すれば報告している。広報を利用し、言葉だけではなく、写真でも伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は、本人とゆっくり話が出来様、居室で過ごしていただき、他人の目を気にせず話をしていただいている。	入居時に本人、家族から昔馴染みの交流関係や場所の情報を得ている。しかし、新型コロナウイルス感染症予防対策により外出・外泊・面会ができなくなっているため、オンライン面会を行う等工夫して対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間関係に注意しながら、座席の設定をし、一人で過ごす事が無いようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、死亡後も片付け、手続き等で来所される際は、精神的に落ち着かれたかの言葉かけや、行事、地域の会議の日程等を知らせ、いつでも来所できるようにきっかけ作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報シートやケース会議で性格、趣味、嗜好品等を確認し、安心して、暮らしやすい生活が送れる様にしている。	入居時に、本人、家族からの情報及び本人の希望の把握に努めている。把握が困難な場合は、日々の生活動作の状況や家族への相談等から、本人本位に検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を確認し、就寝、起床のタイミング、今までの過ごし方で過ごしてもらるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察、記録から心身状態の把握、気づきを全員で報告しあい、入居者ができる事をお願いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族から意向を聞き、スタッフは毎月のケース会議でケアプランの見直しを行い、医療面に関しては主治医にも相談し、ケアに反映させている。	入居前に本人と家族等からの意向を聞き取り思いを反映させた介護計画を6か月を目安に作成している。毎月のケース会議でモニタリングを繰り返し、3か月ごとに見直しを行っている。また、利用者の変化や緊急時にはその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の状況を個別記録に残し、情報を共有し、重要なところは申し送り直接報告、連絡、相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のサービス内容、身体状況、精神状態に合わせて、ケアを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の負担にならないよう、主治医と訪問看護師と相談し、各状況に応じた受診が出来るようにしている。	医療受診については利用者の殆どが往診を希望している。受診結果は、電話や書面で報告し、家族と情報を共有している。また、24時間の医療連携体制を整え緊急時に対応している。専門医の受診については、家族対応であるが、状況に応じて職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護があり、その都度変化や、異常を伝え、必要であれば、主治医へ相談、処方スムーズに受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の相談、今後の入院期間、入院時の面会で状況把握、退院後の状態を予測し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、訪問看護師と相談し、看取り期に入る段階には家族様に介護職、主治医が連絡を取り、同意書を記入してもらい、方針の相違がないようにしている。	入居時に重度化や看取りについての事前確認を事業所指針を基に説明し同意を得ている。看取り期には家族へ医師から説明があり、家族・医師・看護師・職員がチームとなり、医療連携体制を整え看取り支援を行っている。法人内で「看取りケア」の研修を実施し職員のスキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の救急訓練、消防訓練でスタッフ全員が勉強し、有事に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の総合訓練と毎月の訓練を実施している。各災害を日中、夜間の想定で行い、繰り返すことにより対応できるようにしている。年一回は地域の方に参加して頂いている。	年間消防計画を策定し、地域の協力を得た総合防災訓練を年2回実施し、災害時の地域協力体制を構築している。また、毎月、日中・夜間想定・地震・風水害を想定した消防設備操作等の訓練を行っている。非常時の食品・燃料・防寒用シート等を事業所及び法人本部に備蓄し、利用者の安心・安全を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活状況と個々の性格を考慮し、集団生活の中にあっても個人が落ち着けるように配慮し、居室に入る場合は許可を取り、説明をしている。	利用者のこれまでの歩みや生活を考慮し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に心掛けている。個人情報の保護・守秘義務の確保等について法人内研修を行い、日々のケアに活かされている。また、利用者の個人情報や重要書類関係は、事務所のキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立されている、入居者様には希望に添う支援を行い、表現が難しい入居者様には希望を考え選択しやすい支援を提示しケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、おやつ等の提供時間は決まっているが、体調、気分を考慮し、タイミングを合わせ、生活しやすいようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容があり、希望の髪型に合わせて散髪を行い、服装は入浴時に服を選んでいただいたり、整容に関しての話をスタッフと行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	盛付や配膳、下膳、洗い物をお手伝いしていただいている。いただきますの挨拶を担当してもらい、楽しい雰囲気作りを意識している。行事に合わせ、好きな物を出前でとる事もある。職員も同じタイミングで同じテーブルで食事をとっている。	食事の盛付や配膳、食器洗い等出来る範囲で職員と一緒にしている。通常は利用者と共に同じテーブルで一緒に会話をしながら食事を楽しんでいるが、現在は、新型コロナウイルス感染症予防を考慮し、食事の介助と見守り中心となっている。栄養管理やメニュー作成、食材の手配は、業者と契約して実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立を提供している。各入居者様に合わせ食べやすい状態にして提供している。水分も嗜好品を考え提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、定期的に歯科衛生士に確認をしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつをなくすためにトイレ誘導を定期的に行い、排泄感覚の低下を防いでいる。	利用者個々の排泄パターンや表情、仕草等から排泄を察知し、羞恥心や不安感を考慮し、周囲に気づかれないようトイレ誘導を行い、排泄感覚の維持継続が出来るよう支援している。トイレや洗面所は各居室に設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の動きを促すため、歩行運動を行っている。乳製品、食物繊維の摂取を食事、おやつで行い、主治医に相談し下剤の服薬も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を伺い、バイタル確認をし、入浴の声掛けをし、時間の希望を聞いて入浴している。	入浴は、基本的に週2～3回としているが、利用者の要望や状態によりその都度対応している。入浴時は、会話を交わしたり歌を歌うほか入浴剤等を活用し季節感や気分転換を図り、ゆったりと入浴できるよう配慮している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後には居室で休まれるかの声掛けをしている。傾眠や、表情がうつろな時も声掛けし、いつでも自由に休める様な支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で服薬内容を確認し、変更があれば申し送りで伝えている。処方箋はいつでも誰でも確認できるよう、指定の場所の保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や出来ることを普段の会話から聞き出し、スタッフで共有し、役割としてやっていたらいい。そこから自信につながり、コミュニケーションもとれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出支援として、スタッフと買い物や、ご家族との外出、行事として花を見に行ったり、食事に出席している。地域の福祉施設とも交流会を行っている。	買い物や地域への散歩、地区のお祭り・いきいきサロン・エコカフェへの外出、花見やドライブ等に出かけたり、家族との専門医への通院や外食等、気分転換や思い出作りができるよう支援している。また、事業所の畑で、利用者と共に野菜を作り、収穫物を食材として利用し、共に楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人所持の金銭(少額)は禁止していない。買い物に行った時に自分で支払いをしてお釣りをもらえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお手紙ではなにか家族に伝えたいことはないか確認し、年賀状を出す機会を作っている。電話に関しては希望があれば時間帯を考え通話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度に注意し、WBGT値をもとに年間通して快適に過ごせるようにしている。季節感のある装飾をし、植物、畑などを通して季節を感じてもらっている。	職員は、玄関・廊下・今・居室等の温度や湿度、換気を管理し、清潔保持に努め、刺激的な音や光にも注意している。居間に椅子やソファを配置し、壁面に四季折々の作品や行事の写真等を飾り、利用者が、思い思いの場所で、ゆったりと過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置を工夫し、気の合う人と会話を楽しんだり、静かにテレビを見る事でき、居心地良く過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	各居室は個室で、トイレ、エアコン、テレビ線もあり、不自由なく過ごせる環境であり、馴染みの物を置いたり、自分の作品を飾ったりと、その人らしい居室になり、落ち着けるようにしている。	居室は、家族と相談し、利用者が自宅で使い慣れた馴染みの衣装ケースやテレビ、仏壇、位牌等を配置し、壁に伴侶や子供、孫達の写真や自分で製作した作品を飾る等、落ち着きと安心感のあるゆったりとした生活が送れるよう環境を整える取り組みをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの作りになっており、必要箇所には手すりの設置、個人の身体状況に応じて物の配置、福祉用具で安全に生活できるよう工夫している。		